

美しい森林づくり全国推進会議 出井伸之代表が見据える 美しい森林づくりへのビジョン

今春からスタートした「美しい森林づくり推進国民運動」。6月1日には、第一回目の全国推進会議が行われました。経済界や自治体の代表、有識者、約120名が集まり、規約の承認、「美しい森林づくりのための行動宣言」の採択が行われるとともに、代表にはクオインタムリーブ株式会社代表取締役の出井伸之氏が就任。持ち前の強力なリーダーシップを発揮していただくことが期待されます。そこで、出井氏に美しい森林づくりへの思いや、今後の抱負などをうかがいました。

**日本には豊かな
自然や水がある**

人々の環境保護への関心が高まっているなか、美しい森林づくり推進国民運動がスタートしたことは、大変意義深いことです。私たち国民にとっては、日本の豊かな緑のすばらしさを再認識する機会であり、諸外国にとつてのよきサンプルケースとなるような活動にしていきたいと思っています。

今年5月、日本経団連のミッションで安倍総理とともに、中近東へ行きました。訪れたのは10年ぶりですが、そのあまりの変貌ぶりに驚きました。たとえばドバイからアブダビに向かう道路は、かつて砂漠のなかにあったのですが、海水を真水にする技術を用いて全面緑化に成功していました。オイルより水のほうがはるかに高い価値を持つ中近東では、人工的に水や緑をつくるのが大きなテーマとなっています。一方、日本に帰れば、当たり前のように豊かな森林があり、水がある。日本は資源がない国だといわれていますが、果たしてそうなのでしょうか。私たちが、その価値に気づいていないだけで、日本はこんなに美しい資源を持つ国ではないかと実感

しました。ぜひ、もう一度自分たちのまわりにある、自然に目を向けてほしい。その価値の尊さを知ってほしいと強く願っています。

**人々は森林と共存する生活に
新しい価値を見出している**

私がまだ中堅社員として働いていた70年代、日本は工業化のチャンピオン国でした。時代のキーワードは「成長」。おかげで、私たちはもう、ほしいものなど思い浮かばないほどに、さまざまなものを手にしました。では今後、どんな方向に向かって歩いていくのかと考えたとき、目標は「成長」ではなく、「文化の成熟」だと私は考えます。ところが、やはりまだ成長神話ともいえる価値観が日本



には根強く残っている。発展⇨都市化の考えのもとに、地方の自然が奪われていくことに、とくに強い危機感を抱いています。地域が目指すべきゴールはひとつではありません。それぞれが、その風土を生かして創造すべきものであり、決して画一化できるものではありません。確かに、若者にアピールする大型のショッピングセンターやレジャー施設があれば、地方は活気づくかもしれません。しかし、

日本人の好み、ライフスタイルも多様化しています。リタイアしたあとは都会を離れ自給自足で暮らしたい、介護施設に入るなら緑豊かところがよいと思うシニア世代は多い。若者も森林と共存する生活に新しい価値を見出しています。いつまでも、「大きいことはよいことだ」という考えが通用する時代ではないことを認識すべきではないでしょうか。成熟した文化国家となるために、私は今か

ら10年が、日本にとって大きな転換期になると思っています。その第一歩は難しいものではないかもしれません。もっともっと自然をエンジョイすればいい。米や水のおいしさを感じ、そのありがたさに感謝する。生活のいたるところに、環境問題を考える糸口があると思います。みなさんのサポートをいただきながら、精一杯この任務を果たしていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

「成長」をキーワードとした時代を経て
「文化の成熟」に向かって進んでいく

出井伸之 いでい のぶゆき

1937年東京生まれ。早稲田大学政治経済学部卒。60年ソニー株式会社に入社。オーディオ事業部長、ホームビデオ事業本部長、常務取締役などを経て95年代表取締役社長に就任。会長兼グループCEOなど10年にわたりソニートップを歴任、2005年から2007年まで最高顧問。現在はアドバイザーボード議長。2006年9月クオタムリーグ社を設立し、代表取締役に就任。